

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500162
法人名	社会福祉法人 はびねす福祉会
事業所名	グループホーム LOHAS・KOTI
所在地	愛媛県新居浜市船木甲2216-39
自己評価作成日	平成26年10月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日当たりの良い、自然に囲まれた静かな環境にあり、季節を感じながら、穏やかに過ごしていただいている。利用者の一人ひとりの気持や個性に寄り添い、環境を整えることで、その人本来の力が生き活きと発揮できるように努めている。

事業所は、オーストラリアの認知症高齢者施設を手本に建てられており、色彩や照明にも工夫が施され、絵画が各所に飾られている。事業所内は床暖房で、加湿器が使用されていた。食堂とは別に、テレビを見たり、スクリーンを下ろして映画を上映したり、マッサージチェアも配置している居間と、ソファに座りお話できる居間があり、調査訪問時、利用者は代わるがわるにマッサージチェアを使用されていた。調査訪問時、手入れの行き届いた広い中庭で、小春日和のもとテーブルを囲んで、日向ぼっこやおしゃべりを楽しんでいる様子が見られた。又、障害物のない長い廊下を行ったり来たりされている方もあった。  
 前回の外部評価後、10日に一度、昼食を利用者と一緒に行うことに取り組み、利用者の希望する献立に沿ってカレーやお寿司、冷しゃぶ等を料理できるよう支援されている。職員も食卓を囲み同じ物を食べながら、「この和え物は、さんが和えてくれました」等と話題にされていた。利用者のお一人は、「中庭の景色を見ながらみんなで食べるのは楽しい」と話してくださった。2週間に一度、ケーキを食べる喫茶会やパン喫茶を行い、雰囲気を変えてみながらお茶を楽しむ機会を作っておられる。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム LOHAS・KOTI

(ユニット名) 西の家

記入者(管理者)

氏名 越智 賢二

評価完了日 平成26年 10月 3日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員の共有理念として、「今日一日をその人らしく」・「同じ目線、同じ歩幅でゆっくりと」を目標に、理念がケアに反映されるように意識して取り組んでいる。この理念を玄関やユニット毎に掲示し、来訪者にも分かるようにしている。	
			(外部評価) 年度初めの勉強会では、理念をテーマに挙げ、年度の重点項目と併せて、日々のケアの中で実践できるよう話し合われている。今後さらに、地域の中の地域密着型サービス事業所の特長や意義、目的等について、職員、ご家族、地域の方達と話し合いながら、事業所作りをすすめていかれてほしい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 隣接する母体施設の催しや、地域で開催される行事やお祭りにはできるだけ参加し、地域の方との交流を図っている。また、慰問で毎月のコーラスや季節毎にお琴の演奏会の受け入れをしている。近隣のコンビニなどを活用も行き、見学の受け入れも積極的に行っている。	
			(外部評価) 事業所は高台に位置し、地域の方達が気軽に立ち寄っていただきにくい環境にあるが、今年も秋祭りには太鼓台が来てくれ、利用者は喜ばれたようだ。運営推進会議時には、民生委員や自治会長の方を事業所の夏祭りにお誘いしたが、都合があり参加にはつながらなかったようだ。職員からは、「地域の方達に来ていただけるよう、事業所の中庭で園遊会等を開いてはどうか」という意見がある。現在、法人の方針で、ご家族や運営推進会議参加者等、関係者以外の利用者の生活スペースへの立ち入りが制限されている。 今後さらに、地域の活動等に積極的に参加する等、利用者と地域の中に出かけるような機会を作ったり、又、運営推進会議を通じて、いろいろな立場の方が事業所にかかわることができるよう工夫して、利用者や地域の方達とのつながりを作っていかれてほしい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 問い合わせや電話相談・見学などには、丁寧に対応し、地域の人々が立ち入りやすい場所であることを理解してもらえるように努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	事業所の活動報告や課題などについて意見交換を行い、意見や提案などについては、運営に活かせるように努めている。会議の日程を固定し、参加を呼びかけているが、家族の参加が少ないが今年度は数名だが参加して頂き意見も頂戴できた。		
			(外部評価)			会議には、ご家族や利用者、民生委員、自治会長、地域包括支援センターの方が出席しており、事業所から現状報告や活動状況、職員の人事異動等を報告し、意見交換されている。又、外部評価結果を報告したり、評価実施後に作成した目標達成計画についても話合われている。民生委員や自治会長からは、地域行事の情報をお願いしている。ご家族からの「子供と触れ合える行事はありませんか」という発言に、管理者は、今後検討する旨をお伝えした。ご家族には、便りで会議案内しているが、ケアパートナーでもあるご家族には、さらに積極的に参加いただけるよう工夫してはどうだろうか。参加が難しいご家族には会議内容を具体的に伝えて、意見や感想等を聞いてみてはどうだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	地域密着部会の定例会に参加し、市の担当者からの情報や意見を聞く機会を設けている。日常的な相談事項や報告は直接訪問し、担当者に意見を求めるようにし、連携を図っている。		
			(外部評価)			運営推進会議時には、地域包括支援センターの方から、運営推進会議の工夫点やグループホームの位置付け等について、助言いただいている。管理者は、市主催で2ヶ月に一度開催される地域密着部会に参加し、困難事例やターミナル、身寄りのない人の受け入れ等について意見交換されている。介護相談員の訪問が2ヶ月に一度あり、各居室を回って利用者のお話に耳を傾けてくださっている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	生活空間は、両ユニットが交流できるように、ユニット間の仕切りを開放している。基本的には玄関の施錠は夜間のみで、日中はすべて開放しているが新規の利用者の状態をみて期間を定めた施錠の検討を行っている。また、いつでも誰でも出入りできる環境にしている。また、身体拘束に関する勉強会を通じて、職員の理解を深めている。		
			(外部評価)			職員は、年1回、勉強会で「虐待防止と身体拘束」について学んでいる。各居室のベッドにはセンサーマットを設置しており、夜勤者が待機する部屋で集中管理できるシステムになっている。転倒の危険性が高い方には、畳に布団を敷いて、床にもセンサーマットを設置している。又、ベッド柵に鈴を付けている方や、職員の手が借りた時に呼べるよう枕元に鈴を用意しているところもあった。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待について、職員の共有認識が図れるように、研修を行っている。職員の関わり方が利用者の気持ちを抑圧していないか、ケース会や全体会などを通じて振り返る機会をもっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、具体的な事例は無いが、利用者の権利を守るために必要な制度として認識し、勉強会を通じて制度への理解を深めるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前に、重要事項の説明を十分行い、リスク等についても、利用者やご家族に十分理解していただいたうえで、契約書を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などに、ご家族の意見や思いを汲み取る機会を設けている。個人個人の連絡ノートを作成し交流を図っている。利用者の誕生日には、ご家族と一緒に食事を楽しんでお祝いする会を設けたり、行事に参加してもらおう等、日頃から話しやすい雰囲気作りを心がけている。意見や提案が運営に反映されるように前向きに検討している。	
			(外部評価) ご家族の来訪時には、担当職員が1週間毎に利用者の生活振りを記録した、個別の連絡ノートや写真を見ていただき、ご家族も感謝の言葉や要望等を記入されている。又、2ヶ月に一度、行事風景やご本人の笑顔の写真とともに、行事案内や暮らしぶりを手書きで添えた便りを送付している。夏祭りやクリスマス会、年末の餅つきの折には、1~2家族が来られ、餅つきの杵や臼を提供して下さったご家族もある。玄関に設置している意見箱に、管理者が1年毎に変わることに対する意見が投入されていた際には、管理者がご家族に説明をされた。職員の異動については、ご家族来訪時に新入職員を紹介したり、連絡ノートに自己紹介文を書く職員もいる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の職員会では、意見交換や様々な課題の検討を行い、職員の意見や提案が運営に反映できるように前向きに検討している。また、毎月ユニット会議も行き、ユニットリーダー、管理者も参加しユニット内での意見も取り入れ運営している。	職員の入替わりが多いことに不安を抱いているご家族も少なくない。「利用者にとってどうか」という視点から現状を視て、利用者やご家族の希望に沿った支援が継続できるような仕組みを作っていかれてほしい。
			(外部評価) 毎月の全体会、ユニット会で意見交換されている。毎月の勉強会では、年間計画を立て、接遇や認知症ケア、リスクマネジメント等について学び、法人内研修や外部研修の参加も積極的に勤めている。法人内での人事異動が頻繁にあるが、現場が落ち着かない状況に陥ることのないよう、管理者は、職員個別の「OJTチェック表」に基づいて面談を行い、個々の目標や課題を明らかにして取り組まれている。今後はさらに職員間及び職員とご家族の情報共有がスムーズに運ぶよう、コミュニケーション能力の向上も図りたいと考えておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員の勤務状況や実績を把握しており、職員一人ひとりが意欲をもって働ける職場の環境に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外の研修に、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修内容は、職員会や閲覧などで報告する機会を設け、実践につなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着部会の定例会での勉強会や意見交換を行っている。	
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人やご家族からの要望や、出来る事、できない事を把握し、サービス内容をできるだけ一緒に考えるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との事前の話し合いの中で、家族の思いを汲み取り、理解していくことで、家族との関係を築くように努めている。また、ケアプランにも反映し家族と一緒に考えていくようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族と話し合い、状況を把握しながら、必要と思われる支援を見極めるように努めている。福祉用具や、医療系サービスについても、そのニーズに応じて利用してもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者それぞれの残存機能を活かしながら、役割を持って生活し、職員とも協働しながら、喜びを共に味わい支え合えるような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者と家族の関係を理解し、報告や相談を密に行いながら、良い関係が無理なく継続できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまで本人を支えてくれている家族等からの手紙や外出支援、面会などがある。家族の支援で自宅に日中戻られたり、地域の方と交流をしに帰られたりした方もいる。入居前から習っているピアノのレッスンを、引き続き利用できるようにしている。 (外部評価) ご家族や知人の来訪時には、居室でゆっくりと過ごしていただけるよう支援されている。読書好きな方は、4月から来てくれるようになった市の移動図書館を楽しみに待っていらっしゃるようだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			利用者同士の関係性がうまくいくような、働きかけを職員は行い、共に過ごす事が楽しみとなるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			次のサービスを探したり、情報などを関係者に引き継ぐ等の支援を行っている。契約終了時には、いつでも相談に応じることを伝えている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			日々の関わりの中で、本人の言動を良く観察し、表情やしぐさからも伝えたい思いを感じとったりするように努めている。	
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(外部評価)	
			前回の自己評価後、目標達成計画に「利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、日々充実した生活を送っていただけるよう努める」ことを目標に掲げ、毎日のコミュニケーションを大切にして、利用者一人ひとりと会話する機会を増やすよう努力されている。聞き取った情報は、24時間個別聞き取りシートに記入し、職員間で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			利用者の生活歴やサービス利用に至った経過など、家族や本人からの聞き取った情報をもとに、本人を知るような取り組みを行っている。また、居室内は本人が落ち着けるようなレイアウトや持込の依頼をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			一人ひとりの生活リズムを職員は把握し、個別ケアに努めている。職員と一緒にやってみるような場面をつくり、出来る事を見出している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画は、本人や家族の希望や意向をとりいれ、三ヶ月に一度見直しを行っている。ケースカンファレンスを開催しモニタリングとアセスメント実施。状態変化や入院等に応じて、職員の意見を参考に修正している。</p> <p>(外部評価) 介護計画作成に当たっては、ご家族にもカンファレンスに出席していただけるよう案内しているが、まだ参加するご家族はおられないようだ。法人内共通の「24時間シート連動ケース記録」にて、介護計画に沿った支援ができていないか、毎日チェックできるようになっている。担当職員が毎月モニタリングし、3ヶ月毎に評価、アセスメントを行い、介護計画の見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別記録は介護計画にそって実践されるように努めている。また、日々の記録はわかりやすく記録し、職員間の情報共有を図っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況に応じて、通院や外出支援など、出来る限り柔軟に対応できるように努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 本人の希望に応じて、地域の理美容サービスを利用したり、訪問してもらったりしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前からのかかりつけ医の場合は、受診介助は家族に依頼している。状況に応じ、職員が対応している。受診結果は記録し、家族と共有している。訪問診療にきてもらうケースもある。	
			(外部評価) 9月から法人内の訪問看護ステーションと連携し、週3回看護師が来て利用者個々の健康管理に当たっている。現在、終末期を過ごしている方や持病のある方もおり、ケアについてアドバイスしていただいたり、相談したりすることも多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者の日々の健康状態を把握し、異常の早期発見に努め、状態変化は、直ちに看護師に相談。適切な受診につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 家族や医療機関との連携や情報交換を行い、早期退院に向け受け入れ体制を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時には、事業所の方針を説明している。利用者の状態変化に伴い、常に家族の意向も確認しながら、事業所でできる支援について説明している。また、重度化しても対応できるように入浴設備を整えている。	
			(外部評価) 入居時に、「看取りに関する指針」を提示し説明されている。5月頃から口から食事が摂りにくくなった方があり、ご家族と話し合われた結果、ご家族は事業所で最期まで過ごすことを希望され、ご家族の協力も得ながら支援されている。高カロリー食をゼリー状にして口にされており、おやつには生キャラメルを好まれ、現在は安定した状態を保っており、調査訪問時には、居間で過ごしておられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員会等で、定期的に応急手当やAEDの使用方法、緊急時の対応マニュアルについて勉強し、職員間で周知できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中や夜間を想定して、避難訓練を利用者とともにやっている。地域との協力体制はまだ構築されていないが近隣の同一法人内の施設や推進会議では依頼をしている。今後は地震や水害などの具体的災害を想定して、必要な訓練の実施に努めたい。	
			(外部評価) 年2回、避難訓練が実施されている。自治会長を通して、災害時には地区に協力していただけるようお願いしている。次回の避難訓練は、運営推進会議と併せて地震想定で実施する予定となっている。排煙口も整備し、日常は開放しているユニット間の仕切り扉は、防火扉として火災時には閉じるようになっている。現在、事業所では2～3日分の食糧が備蓄されている。今後、さらなる利用者の安心安全に向けて、地域と相互に協力できるような体制も整えていかれてほしい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーに配慮した、言葉かけや姿勢を心がけ、職員間で利用者一人ひとりの対応について確認している。	
			(外部評価) 職員は、起床時間を始め、利用者一人ひとりのペースを尊重した支援を心がけておられる。調査訪問時、玄関や食堂には、華道の先生だった方が剣山を使って生けた花が飾っており、又、庭いじりがお好きな方がエプロン姿で中庭の草取りに励む様子等もみられ、利用者個々に役割や出番を見出し、自信をもって生活できるような支援に努めておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせて、本人の希望が選択できるような場面作りに努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の流れに添った中で、一人ひとりのペースを大切にその日の体調に応じた対応を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の化粧品購入や、馴染みの美容院で希望に合わせた、カットや毛染めを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 普段は、隣接施設からの配食で、利用者に食事の準備や後片付けなどを手伝ってもらっている。月に数回は、お誕生会やおやつ作り、手作りご飯にて利用者と一緒に食べるようにしている。また、中庭を活用しバーバキューをしたり、季節の行事で、餅つきやクリスマス、夏祭り会等も実施した。	
			(外部評価) 前回の外部評価後、10日に一度、昼食を利用者と一緒に手作りすることに取り組みられ、利用者の希望する献立に沿ってカレーやお寿司、冷しゃぶ等を料理できるよう支援されている。調査訪問時は、手作りの日で、ホットプレートを使って東ユニットでは高菜のチャーハン、西ユニットでは、焼きそばを利用者と一緒に作っておられた。職員も食卓を囲み同じ物を食べながら、「この和え物は、〇〇さんが和えてくれました」等と話題にされていた。利用者のお一人は、「中庭の景色を見ながらみんなで食べるのは楽しい」と話してくださった。食後、食器を押し車に乗せて下膳する方、台所に立って食器洗いをする方もみられた。2週間に一度、ケーキを食べる喫茶会やパン喫茶を行い、雰囲気を替えてみなでお茶を楽しむ機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量や水分量を記録し把握している。摂取できにくい利用者には、食事形態を変更したり、トロミをつける等の工夫をして、適切に対応している。できるだけ自分で食べてもらうように食器や自助具の検討もしている。また、食事量の少ない方については管理栄養士と相談しながら高カロリーゼリーやドリンクを提供し栄養に気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き・うがいの声かけを行っている。個々の状態に合わせて、見守り・声かけ・介助を行い、確認を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を活用しながら、個々の習慣や排泄パターンを把握し、さりげなく誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 各居室にトイレと洗面台が設置されており、昼間は、トイレで排泄できるよう支援されている。入居時には、紙おむつを使用していた方が、職員の声かけや誘導により、紙パンツとパッド、そして、布パンツとパッドへ、又、布パンツとパッドを使用していた方が布パンツに改善されたケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 屋内外への散歩や体操を行い、身体を動かす機会を設け自然排泄できるように努めている。また、水分補給や、乳製品等をおやつに取り入れるなど工夫している。便の出にくい方は腹部マッサージを行い便通を促している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の気持ちに添うように対応し、一人ずつゆっくりと入浴してもらおうようにしている。入浴を嫌がる方にはタイミング良く声かけを行い、スムーズに入浴できるように支援。血行促進の為、入浴以外で足浴を実施している方もいる。	
			(外部評価) 東ユニットには機械浴槽、西ユニットには可動式の家庭用浴槽が設置されている。一日おきに、すべての利用者が湯船に浸かって入浴できるよう支援されている。毎日入浴したい方にも対応されている。脱衣所に音楽を流し一緒に歌いながら浴室まで誘うと、入浴を拒む方も気持ちよく入浴につながることもあるようだ。仲の良い利用者同士で入浴する機会も作っている。お気に入りのシャンプーや石鹸を使用している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、なるべく活動を促し、本人の状態に合わせてゆっくり休息できるように支援している。また、夜間眠れない時には、一緒にお茶を飲んだり、会話するなど、安心して眠れるように配慮している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の薬の内容が把握できるように、個人ファイルに処方内容をまとめ、職員全員が情報を確認できるようにしている。飲み忘れや誤薬のないように個々の薬袋で管理し、服薬確認もチェックを行い次回受診をホワイトボードに記入し、2重、3重チェックで事故防止を行っている。受診の付き添いを家族に依頼することで家族にも状態を知って頂いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で、掃除や食器の後片付け、洗濯たたみなどの役割を持ってもらっている。また、行事の検討にて習字、プランターで花や野菜を育てる、外出行事など職員とともに楽しみながら実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとの外出や、個別の外出や散歩の支援を職員や家族の協力を得ながら実施している。重度の方も車椅子で中庭を散歩したり、近隣施設より大型車を借り、外気に触れるようにしている。 (外部評価) 事業所近くの池田池までは散歩コースとなっており、四季折々の自然を楽しめるよう支援されている。マイントピアに芍薬を見に行ったり、スーパーに化粧品や洋服等を買に出かけることもある。ご家族と墓参りや食事に出かけたり、毎月の受診の折を捉えて、ご家族と外食される方もある。管理者は、「月に一度は外出の機会を作っているが、行事として定期的に外出できるように取り組み、外食支援も実現していきたい」と話しておられた。	今後さらに、利用者一人ひとりの希望に沿った外出支援ができるよう、利用者の思い出の場所や馴染みの場所を探ったり、又、地域の中に楽しめる場所を開拓して、出かける機会を積極的に作り、利用者の生活を上げていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者がお金を所持したり、使う事への積極的支援は行えていないが、金銭管理ができる方には、自己管理をしてもらい、買い物などでご自身で支払えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて、電話をかけられるように支援している。また、絵葉書などで近況をお知らせしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節感のある飾りつけや、作品などを利用者と一緒に作りしている。毎月環境整備を行い、利用者にとって居心地の良い環境に努めている。リビングでは、懐メロや唱歌などの音楽を流している。</p> <p>(外部評価) 事業所は、オーストラリアの認知症高齢者施設を手本に建てられており、色彩や照明にも工夫が施され、絵画が各所に飾られている。事業所内は床暖房で、加湿器が使用されていた。食堂とは別に、テレビを見たり、スクリーンを下ろして映画を上映したり、マッサージチェアも配置している居間と、ソファーに座りお話できる居間があり、調査訪問時、利用者は代わるがわるにマッサージチェアを使用されていた。小あがりの6畳の和室は、お雛様を飾ったり、腰を下ろして音楽を鑑賞する方もおられる。調査訪問時、手入れの行き届いた広い中庭で、小春日和のもとテーブルを囲んで、日向ぼっこやおしゃべりを楽しんでいる様子がみられた。又、障害物のない長い廊下を行ったり来たりされている方もあった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 気の合う利用者同士の座席の配慮や、リビングや中庭等で、思い思いにくつろげる場所がある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 馴染みの家具や家族写真、花、好きな芸能人のポスターなどを飾られている。自宅から、仏壇やパチンコ台やピアノを持ってこられている方もいて、安心感や満足感の支援につながっている。</p> <p>(外部評価) 各居室の入り口横の棚には、利用者個々がフラワーアレンジメントの時間に生けたお花が飾られていた。入居後もピアノレッスンに通っている方は、電子ピアノを置いていた。書棚に60冊程の蔵書を並べ、机に向かって読書する方もある。ご家族の写真やご本人手作りの手芸品、人形、ぬいぐるみを飾ったり、お位牌を持ち込まれている方もあった。居室からは山々が眺められ、調査訪問時には、スキの穂が風になびく様子がみられた。利用者が「部屋の窓から見える、山間に昇る朝日がとてもきれい」と教えてくださった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 利用者のできる事、わかる事を活かし、各居室には名前や目印をつけ、環境面を工夫している。また、利用者同士助け合ったり、職員も見守り支援しながら、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。</p>	